

第33回総会・懇親会のご案内

氷見高校同窓会関西支部会
会長 中坪健治
電話 090-4562-1221

関西支部会では、下記の通り第33回総会・懇親会を開催いたします。関西在住の新・旧氷見高校、有磯高校、氷見高女、及びその前身校の卒業生の皆様のご出席をお待ちしております。同封の返信ハガキで出席・欠席のご連絡をお願い申し上げます。(ハガキは準備の都合上、4月15日までにご投函下さい。)

開催日: **平成29年5月21日(日曜日) 正午~**

会場: **大阪新阪急ホテル 2階 星の間**

総会会費: 8,000円 (お一人)

年会費: 2,000円 (一家族)

総会当日 ご持参下さい。(総会ご欠席の場合は、同封の郵便振替でご送金下さい。)



【電車の場合】

- ◆阪急「梅田駅」すぐ
- ◆JR「大阪駅」御堂筋口からすぐ
- ◆地下鉄御堂筋線「梅田駅」に直結
- ◆新幹線「新大阪駅」よりJRまたは地下鉄で約7分

第32回総会・懇親会の開催

平成28年5月、関西支部会の第32回総会・懇親会を大阪梅田の大阪新阪急ホテル”星の間”で開催致しました。氷見高校より萬谷清澄副校長、開美代子教諭、同窓会本部より北鹿渡文照会長、吉野耕三事務局長にご出席いただきました。

総会の冒頭、当支部会発足時から色々ご支援をいただき、最近ご他界された、中居俊一氏・白石銑三郎氏・喜多樹氏・松木俊雄氏・奥平明美氏・犬内甚吾氏・北原宏氏のご逝去を悼み、出席者全員で黙祷を捧げました。ご来賓の皆様からご祝辞や、同窓会(本部)のふるさと氷見の活動状況をご報告いただきました。

関西支部会の決算・予算・活動計画が満場一致で承認され、全員で記念撮影をして、第1部総会を終了しました。



第2部懇親会では、ご来賓の皆様のスピーチや、米田美智子さん(昭和35年卒、天羽流名取)の華麗な日本舞踊“富士”は会場を魅了しました。

母校校歌の斉唱、有志の皆様のスピーチやカラオケで楽しいひと時を持つ事ができました。

最後に、関西支部会 安井隆同副会長が閉会の辞を述べ、来年の再会を誓ってお開きとなりました。

第32回グルメの会の開催

平成28年11月20日、大阪天王寺の「あべのハルカス」でグルメの会を開催しました。高さ300メートルの日本一高いビルから広大な景色を一望し、春帆桜でふぐ会席をいただき、お腹と目に栄養たっぷりの集いでした。

母校の近況報告

氷見高校副校長 萬谷清澄先生
(昭和50年3月卒)

氷見高校同窓会関西支部の皆様には、平素より母校氷見高校の発展にご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年5月15日の関西支部第32回総会には北鹿渡同窓会長・吉野事務局長・開総務部長と共に参加させていただき、楽しい一時を過ごさせていただきました。本当にありがとうございました。

氷見高校の本部同窓会総会・懇親会は9月25日に氷見温泉郷くつろぎの宿「うみあかり」で行われました。旧氷見・新氷見・有磯分会の全ての会員が集う総会として2回目となりました。関西支部からは中坪会長・狩野幹事に参加いただきありがとうございました。

さて、今年度の本校の活動状況をお知らせします。5月には、平成28年度「県民ふるさと大賞」を富山県知事より頂きました。これは、1年生の授業で、氷見の自然や地域の歴史・文化・社会・環境などを学ぶ「HIMI学」がふるさと教育活動として認められたものです。

部活動では、自転車競技部3年の村田君がインターハイで全国優勝を勝ち取りました。野球部は夏の県大会ベスト4、ハンドボールは男女とも北信越大会（春の選抜大会）に出場、弓道部男子は全国選抜、女子はインターハイに出場しました。その他、コンピューター経理部が全国パソコン技能大会で第3位になっております。

また、進学実績向上を目的に、帝大突破プロジェクトや土曜補習など生徒の実力を伸ばす取り組みも行われています。専門学科では、地域との連携を目指し、販売実習やボランティア活動など、それぞれの科の特徴を現す活動を行っています。

今年度は、第一体育館の耐震工事や北棟のサッシやベランダのリニューアルが行われました。本校の北西側に隣接する新朝日山公園（仮称）に駐車場やトイレが造設されるなど環境面でも変化が見られました。

故郷氷見にお帰りの際は、是非氷見高校にお立ち寄りいただいて、新しくなった施設設備や生徒の活動をご覧いただければと思います。終わりに氷見高校同窓会関西支部の皆様のご健勝ご多幸を祈念し本部報告といたします。



自転車競技部



コンピューター経理部

くららってなーに？

マメ科 くらら族の多年草
氷見と関係ある？

氷見市胡桃と関係あります
向井嘉之氏の著書

くらら咲くころに

——童謡詩人多胡羊歯

魂への旅

梧桐書院刊

をご読み下さい。

多胡羊歯さんは

次ページの随筆「トランプの国」見聞録の
筆者、関西支部会顧問、多胡冽さんのお父上です。



随筆

「トランプの国」見聞録 多胡 冽 (昭30年3月卒)

畏友各位

この正月開け早々、恒例の Las Vegas 詣でを強行した。と言っても、タツキの一齣であって諸姉兄邪推の日本語で言う Trump の運試しの為ではない。道中短い一昼夜、崎人、Racist 遊具ではない Trump とそれを選んだアメリカ人の遊び心と度量の大きさに感嘆し、この大国の行方に想いを馳せた。

一口に、アメリカ、米人といえ、昔からやつがれには、大まか、大味、能天気といった負の印象が強いが、哀しいかな、最近そんな傾向が増長している節があるのは如何とも難しい事実のようだ。

例えば、近年乗り換え・接続の利便性も優れ、Vegasへは西海岸 SFO/LA の往路復路とも UA を利用させてもらっているが、これが先ずお粗末の一言に尽きる。昨年は、SFO から Vegas への往路、到着便の遅延とやらで朝6時から正午まで6時間待たせた挙句、詫びはおろか、本日中の到着を希望の向きには特急バスを仕立てる旨一方的に通告。タダで持って行ってやるのだから感謝しろと云わんばかりの対応には開いた口が塞がらない。ここは当然、宿泊費キャリアー持ちの overnight 提案もあって然るべきだろうが...。已む無く、バス搭乗とするもそれからが大変。LA 経由で12時間、不夜城の街とは謂えども深夜 AM 着の始末。道中、休憩で数度コンビニに立ち寄るもスナック・ドリンク類は自腹、何等補償らしき気配もない。全く踏んだり蹴ったり、長距離バスの乗客30人前後、全員日本から不眠で疲労困憊。結局、UA からは一言の謝辞もなくうやむやで解散。仕事とは言えただ一人で半日に亘って面倒を見てくれた Mexican の運ちゃんに感謝は別、と思いきや、皆よほど腹に据えかねていたものと見え、イザ心付けとなると捻り出す者僅か2、3人。わが同胞の余裕の無さ心の貧困を垣間見た想いで聊か複雑な気持ち。因みに、小生は大枚5 bucks を奮発した。とまれ、唯一無二、その兄ちゃん的笑顔が忘れられない。

今年とは言えば、昨年と同便同刻に San Fran に着いたのだが、今度こそは定刻でとの淡い期待も見事に撃ち碎かれる破目に陥る。いきなり指定の搭乗口 Gate で、お決まりの、今度は給油問題とか口実は違いますが、到着遅延の報。兎も角出発が15分遅れの御託宣。やれやれ！これは想定内、UA には上出来と安堵も束の間、更に30分、1時

間とアナウンスの度に遅れは幾何学的に増幅する。前年の轍を踏むと略諦念の中で離陸、6時間遅れで着いた。

ご存知の如く、United Airlines (UA) と言えば American (AA) と覇を競う全米否世界2強の航空会社の筈だが、今や疲弊没落し、斯様な体たらく。貧すれば鈍す、今や此のジャンボも墜落寸前。箍が緩んでしまって手の施しようもないようだ。

斯様に万事安易怠慢に流れる風潮にあって、今回の米国民の Boss 擇びに於ける旧習に捉われぬ大胆さは刮目すべきものがあるやに思われた。青天の霹靂、破天荒の椿事といろいろ評価あるいは批判されているが、大愚は大賢に通づと箴言にも謂う。若しかして、未曾有の英断だったかもしれない。

奇想天外、驚天動地の珍案愚案も含め、滾々と尽きることなく湧き出る発想、夢想の類も多種多様だが、これぞある意味天才と思わせる。

だが一方で、唯我独尊、孤立主義 Isolationism (尤もこれは初代 G. Washington に始まり大戦前の Monroe に至る一大系譜なのだが) 巷間に言う“世界終末時計”破滅までの残余時間を縮むはまだしも、衝動的に核ボタンの押し間違えといった笑えぬ悲劇もなしとしない。大乘の見地での洞察と理念、視野の広さを欠く、この小惑星の温暖化とか遠くない将来に懸念される大命題に背を向け、始皇帝じゃあるまいし米墨間遮断壁の構築など荒唐無稽な提唱に憂き身を窶しているのも世界のリーダーとしては如何にも心許ない。

この御仁、ご存知信長ばり、稀代のうつけものとの評もあり、過日演説の一端を拝聴したが、滅多に聞かれぬ carnage (死体累々とした戦場の修羅場) などと知識はハンパではないようだ。実は Ivy リーグ名門校の出とかムベナルかなである。唯、セレブの口にすべきで無い、品格に難はあるようだが...

Vegas で偶然捉まえたメキシコ移民の Taxi Driver と、一緒に見上げた Trump Tower の威容との因果・因縁の深さと共に、この game、賽の目は丁と出るか半と出るか、節目節目で一喜一憂することになるだろう。

他愛も無いことを縷々と書き記したが、未だ渋たく生き延びている証左としての現状報告とさせて頂きたい。

随筆

未だに腑に落ちない豆腐の腐 山根達也 (昭41年3月卒)

五穀の一つである大豆から出来る「豆腐」について理解し難い点を述べたい。

大豆は巷では「畑の肉」と言われるごとく蛋白質に富み、味噌、醤油、豆腐、納豆などの原料に用いられている。

その中で豆腐は蛋白質及びビタミン B1 等に富んだ栄養食品である。これは一夜水に漬けた大豆を粉碎し、加熱して豆汁をつくり、「布」で濾した豆乳に凝固剤を加えて固めた食品である。これ等の工程からして、豆腐の「腐」の字が未だに理解できないのである。あのネバ・ネバした大豆食品である納豆のように、大豆に納豆菌を加えて適温の中で発酵させたものでないのに、発酵関連の「腐」が混在されていることに「腑に落ちない」のである。そのような事から、もしかして納豆名と豆腐名とが、どこかで入れ替って命名されたのではないかと思ったりもしたのである。

それはともかくとして、白くまろやかな豆腐は、どちらかと言えば、豆汁を「布」で濾して作ることから、「豆腐」とするか、あるいは蛋白質、ビタミン B1、ミネラル等に「富」んだ栄養食品であることから、「豆富」とすれば、内容のある美的な標記として解り易く、一層美味しく頂けるのではなかろうか。

ところで、その「豆腐」の中でも、とりわけ山紫水明の地での地下水で出来た「豆腐」はなぜか美味しいと、京の老舗では煩く言われている。いみじくも、江戸後期の風俗誌「守貞謾稿」(嘉永6)に於て、京阪の「豆腐」は江戸のものとは比べて「色が白くて柔らかく、しかも美味である」と記されている。

・冷奴 水が自慢の 隠し味 (京の老舗)

・泉より 覗かす皓歯 冷奴 (京の老舗)
(皓歯:白く清らかな歯)



・湯豆腐の 踊り舞台に 山紫の水 (南禅寺・順正)



(南禅寺三門の紅葉)